

## 道東地区とエゾシカ

～北海道全域で見られるシカ～

北海道の様々な地域で見られるエゾシカは、オホーツク地域でも多く見られます。またオホーツク地域と釧路地域を結ぶ道路沿いは特に目撃情報が多く、乗用車との衝突事故も多く発生しています。今回はエゾシカの生態や、車を運転する際の注意点等をご紹介します。

### エゾシカの生態

北海道ではキタキツネ等に並び、身近な動物であるエゾシカ。郊外を車で運転している時に目撃したことがある方や、衝突しそうなヒヤッとした体験をした方もいるでしょう。

日本国内に広く生息する「ホンジカ」には7種類の

亜種があり、エゾシカもその一種です(他に、奈良の鹿を含むホンシユウジカ等があります)。体長は平均140cmから150cm程度と、北海道内に生息する野生動物としてはヒグマに次ぐ大きさであり、「ホンジカ」のグループ内でも最大です。また、オスのみ生える角もグループ内で最大です。エゾシカは季節により夏毛と冬毛が生え替わりますが、一般に雪に弱いとされ、積雪が多い地域に生息する個体は越冬地へ移動する場合があります。エゾシカは生まれてすぐに死ぬ個体も多く、平均寿命は3〜4年とされていますが、長生きするものは10年以上、場合によっては20年以上生きる個体もいます。

### エゾシカと人の関わり

エゾシカは草食であり、動物や昆虫・魚介類などを食べることは基本的にありません。食べ物が減る冬は、消化にあまりよくない木の樹皮を食べる場合もあります。樹皮を失った樹木は急速に衰えてしまうため、食害問題となっています。

また、酪農を営む上で不可欠となる牧草を、エゾシカに食べられる被害も見られます。2020年に道内で野生動物が引き起こした農業被害のうち約8割をエゾシカが占めており、農業被害対策Ⅱエゾシカ対策と言ってもよい状況です。

### 鹿肉の利用

エゾシカの個体数は平成以降爆発的に増加しており、様々な被害が見られることから、毎年10万頭を超える数が捕獲されています。捕獲した個体を有効活用するため、北海道各地で様々な取り組みがされています。

ここでは知床地区で販売されている商品をご紹介します。

#### 鹿肉のしゃぶしゃぶ



鹿肉の赤身のしゃぶしゃぶです。さっぱりとした味わいが特徴です。

#### 鹿肉のドッグフード



エゾシカ肉を活用したドッグフードです。

### 車を運転するとき



エゾシカは自動車との衝突事故が非常に多い動物で、人身事故になる場合もあります。車を運転する時は、次の点に注意しましょう。

- ・釧路市周辺ではシカとの衝突事故が特に多く、付近を運転する際は速度に注意する
- ・群れで動くため、連続して飛び出す可能性がある
- ・森の間は通り道になりやすい
- ・早朝、夕方の飛び出しが多い
- ・ヘッドライトで目が光るため、夜の光り物に注意する
- ・10月から11月にかけて、季節移動で道路を横断する頭数が増加するので特に注意する

# 特集 斜里岳

斜網地区から広く見ることができ、地元の方にはなじみ深い山・斜里岳。夏は登山スポットとして人気であり、冬は雪を被った美しい姿が特徴です。今回は斜里岳の見どころや、登山について、そして斜里岳でよく見られるヒグマの生態についてご紹介いたします。

## 斜里岳について

知床半島の付け根にある、標高1,547mの斜里岳。その美しい様子から、日本百名山の一つにも数えられます。古くはアイヌ語で「オンネヌプリ(大きな山等の意)」と呼ばれていました。なお、「シャリ」はアイヌ語で「葎の生えた湿原」という意味があります。阿寒側からは斜里岳、南斜里岳、西峰といった山々によって複数のピークを持つように見える一方、オホーツク海側からはその野が広く富士山のような形に見えるのが特徴です。このため、斜里岳は別名「オホーツク富士」、斜里富士とも呼ばれます。また、斜里岳は6つの火口をもつ活火山でもあります。地質調査の結果、最後に噴火したのは25万年以上前と言われています。

## 斜里岳の登山

斜里岳は登山が盛んな山です。登山に適した時期は、例年6月下旬の山開きから9月下旬の紅葉時期までと言われています。

斜里岳の登山ルートはいくつかあり、清里町の「清岳荘」から登り始めるルートが最も人気です。往路は沢を登る旧道、復路は沢

を通らずに尾根を伝って迂回する新道コースを通ることが推奨されています。

この清岳荘を起点とする登山ルートは、登山に慣れている人で6時間、団体だと10時間程度かかります。川をまたぐ「渡渉」を繰り返す特徴があり、足首まで水に浸かることが多いので、登山靴やスパッツ等を準備しておく必要があります。次第に道が急になるため難易度が高く、体力も必要のため、比較的易しいと言われる藻琴山等で練習してから挑戦するのが良いかもしれません。ここからはこの清岳荘を起点とする登山ルートを解説いたします。

### ① 清岳荘から上二股まで

清岳荘を出て少し歩くと、斜里岳登山の特徴である沢登りが始まります。道中は幾度となく渡渉を繰り返し、次々と現れる滝を楽しみながら登っていきます。次第に傾斜が急になるため、滑落に注意が必要です。自信のない方は、下二股から新道コースを登ることや、上二股から上へは行かず新道コースで引き返すことも検討する必要があります。

## ヒグマについて

北海道全域に生息するヒグマですが、斜里岳から知床地域にかけては特に多いと言われます。ここではクマに出会わないための工夫、出会った場合の対処法をお伝えします。近年は市街地でも目撃情報があるため、登山をしない方も一読をおすすめします。



### <クマと出会わないために>

- ・食べ物のごみを放置しない  
残飯の匂いにつられてやってくる場合があります。
- ・熊鈴を携帯する、一人の行動を避ける  
人間のいるところを避ける性質を利用します。



### <クマに出会ってしまったら>

- ・大声を出さない  
驚いて襲い掛かってくる場合があります。
- ・走って逃げない  
逃げるものを追う習性があります。
- ・死んだふりをしない  
逆に興味を持たれてしまう可能性があります。
- ・熊撃退スプレーを使用する



▲ 渡渉の様子



▲ 熊見峠までの道



▲ 馬の背

## ②上二股から頂上まで

上二股を過ぎると沢登りは終わりを迎えます。ここから先は「胸突き八丁」と呼ばれる、胸を8回突くぐらいつらい登りが続きます。それを越えると、岩くずがガラガラと積み重なったガレ場で、休憩ポイントでもある馬の背が見えてきます。馬の背からは高山植物が多い地帯となり、見晴らしも良くなります。馬の背からも少し登ると、ついに頂上に到着します。頂上からは東北海道が一望でき、知床連山、国後島、阿寒の山々に、遠くは大雪山まで見渡すことができます。

## ③新道コース

頂上からの復路の途中、上二股で新道コースと旧道コースに分かれます。往路と同じ旧道コースは、疲労の溜まった状態で沢を下るため極めて危険であり、新道コースを歩くのが一般的です。

新道コースは熊見峠まで尾根伝いに歩いていきます。このコースから振り返って見る斜里岳も、とてもきれいで圧巻です。熊見峠を過ぎると、往路と合流する下二股まで急斜面の下りが待っています。疲れていると転倒してしまいう危険性があるため、注意が必要です。

下二股からは往路のコースと合流し、沢を下って、ゴール地点である清岳荘へ戻ります。

**清岳荘**  
清里町から斜里岳を登るルートスタート地点にある山小屋です。斜里岳の登山情報や、クマの出没情報を随時発信しています。

所在地  
北海道斜里郡清里町江南872  
電話番号  
0152-25-4111  
(きよさと観光協会)  
営業時期 6月下旬～9月下旬  
※発行日時点の情報です。



斜里岳頂上  
斜網地区からオホーツク海まで広く見渡せます。

## 斜里岳登山コース案内





### 帯広市

帯広市緑ヶ丘公園にあるベンチは、かつて6年間だけ世界一長いベンチとしてギネスブックに登録されていたことがあり、カントリーサインにも描かれています。また、帯広市はスピードスケートが盛んであり、スケートをする人も描かれています。



緑ヶ丘公園



### 音更町

音更町といえば十勝川温泉。温泉に浸かっている女性が描かれています。また、十勝が丘公園にあり、かつて世界一大きい花時計としてギネスブックにも載ったことがある、花時計「ハナック」も描かれています。



花時計「ハナック」

当庫の支店がある街のカントリーサインを全6回に渡って紹介してまいりました。各カントリーサインを調べてみると、制定時の様々な想いを知ることができました。これまで調査にご協力いただいた皆様、そして読者の皆様、長らくのご愛読ありがとうございました！

※当庫ホームページでは地域の扉のバックナンバーを掲載しております。これまで取り上げた街のカントリーサインをもう一度ご覧になりたい方は、ホームページをチェックしてみてください。

### 編集後記

今回はエゾシカやヒグマといった、北海道に広く生息する身近な動物を取り上げました。どちらもヒトとの共生が課題となっており、よくニュースでも取り上げられています。出会わないための方法や、出会った時の対処法も掲載していますので、この記事が少しでも多くの方の役に立てば幸いです。

新型コロナウイルスの影響で、夏のイベントが2年連続中止だった地域も多いかと思います。今年こそは開催されることを祈りましょう！